

平成 26 年度 第 1 回 尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

1 と き

平成 26 年 5 月 27 日（火）午後 2 時から午後 4 時まで

2 と ころ

尼崎市庁舎北館 3 階教育委員会室

3 出欠状況（順不同）

- （1）出席委員 10 名
- （2）欠席委員 2 名
- （3）出席職員 教育長以下 11 名

4 会議成立の報告

司会者より定員 12 名中 10 名が出席し、会議が成立している旨の報告があった。

5 会議内容

議事進行に先立ち、平成 26 年度第 1 回目の会議のため教育長より挨拶があり、家庭教育力や地域教育力の低下から「つながり格差」という言葉が生まれた。最近の研究では、つながり格差が児童、生徒の学力低下に関連しているとの報告もある。社会教育委員会議では学校、家庭、地域のつながりの重要さをあらためて認識いただきたいとのことであった。続いて、委員、出席職員の紹介があり、その後議事に入った。

協議事項

（1）平成 26 年度社会教育関係主要事業について

社会教育部内所管課及び教育総合センターの社会教育関係事業のうち、主要なものについて社会教育課長より説明があった。

これに対して、あまなびサポートデスクなど名称だけでは何ができるのかわからないので、内容についてもきちんと発信してほしい、対応する職員の一定の専門性、情報共有を確保してほしいとの意見があった。

歴博・文化財担当より文化財収蔵庫が今年度から土日開館となり、入館者数が昨年を越えたこと、市外から訪れる方が多いとの報告があった。これに対して、これまで PR が足りない部分があったが興味深い内容ばかりのため、今後とも力を入れてほしいとの意見があった。

続いて、学校開放事業に関連し、小学生の自転車走行の危険な場面が市内で散見されることから、学校内で指導できないかとの質問があった。これに対し、小谷委員より中学校では安全教育の一環で自転車の乗り方やマナーについて取り入れているが、自転車はスポーツではないため小学校の学校開放で扱うことは難しいとの回答があった。学校利用は様々な規定があり、位置づけが困難な現状があるとの意見もあった。

(2) 平成 2 6 年度社会教育関係団体への補助金について

社会教育課長より資料に沿って説明があった。概ね昨年と同額だが、PTA 連合会補助金の減額の理由として、補助対象事業が未実施のためとの説明があった。

(3) 社会教育委員会議における協議事項及び社会教育委員会議における協議経過について

社会教育課長より平成 2 6 年度の協議事項の一つ目として、梅香小学校敷地複合施設のあり方について、あり方検討市民会議には社会教育の代表として社会教育委員会議より川岸委員に出席していただくこと、二つ目として、平成 1 9 年度 of 社会教育委員会議の提言である尼崎市社会教育計画で提案のあった内容について検証を行っていくことについて報告があった。

一つ目の複合施設のあり方について、検討する際には管理体制や運営手法より施設をつくる目的を明確にしてほしい、協議の途中経過も逐次報告してほしい、との意見があった。これに対して事務局から市民会議ですべてが決定するわけではない、社会教育委員会議としてひとつのスタンスを示していただきたいとの応えがあった。多目的ホールの扱いについて、社会教育施設と位置づけるべきか否か、社会教育法に縛られない利用面での使いやすさ、階でフロアの使い方を分けるなど様々な意見交換がなされた。

二つ目の提言の検証について、議長よりこの提言をもとに平成 2 6 年度は協議し何か成果をだしたいとの意見があった。また、提言の内容は多岐に渡るが、行政としてこうしてほしいというスタンスを示してほしい、委員としてどこまで判断していいものを踏まえたうえで協議に入りたいとの意見があった。

以 上